



今年度も実施します！

平成 29 年 8 月 30 日
国土政策局 離島振興課

離島と企業をつなぐ「しまっちんぐ」プロジェクトが始動！

—離島と企業の「マッチング」により離島創生を目指します—

国土交通省は、離島と企業をつなぐ「マッチング」の場の提供を通じて、離島の活性化につなげる「しまっちんぐ」プロジェクトを推進しています。平成 29 年度は 8 つの離島地域の参加が決まりました。

※ 「しまっちんぐ」は、国土交通省初の取組として平成 27 年度に始めた事業で、今年度で 3 回目です。
※ 8 つの離島地域は公募により決定しました。

- 国土交通省は、離島と企業をつなぐ「マッチング」の場の提供を通じて、離島の活性化につなげる「しまっちんぐ」プロジェクトを推進しています。
- 3 回目となる今回は、離島と企業の「つなぎ役」として、民間企業のコーディネーターが、各島を担当し、「マッチング」を細やかにサポートします。
まずは、島の思いをカタチにするため、コーディネーターが島に赴き、島の事業者や若者らとワークショップを行い、活性化プロジェクトのアイデアを引き出します。
- 「しまっちんぐ」プロジェクトの始動にあたり、9 月 1 日（金）に「しまっちんぐ 2017」特設サイトを開設し、参加する 8 つの離島地域の概要等を掲載します。今後は、コンテンツの充実を図るとともに、サイト上で活性化プロジェクトへの賛同企業を募り、10 月下旬に、離島と企業の交流・商談の場「しまっちんぐ 2017」を開催します。
特設サイトはこちら ⇒ <https://shimatching.mlit.go.jp/>
- 国土交通省は、離島の新商品開発や観光振興等の官民連携の取組を推進し、離島の雇用創出や定住促進につなげたいと考えています。
- 平成 29 年度の取組の詳細については、別紙をご参照ください。

参考資料

- 別紙 1 : 参加離島地域一覧
- 別紙 2 : 企業をつなぐ「しまっちんぐ」の概要
- 別紙 3 : 平成 29 年度の「しまっちんぐ」の取組予定
- 別紙 4 : これまでの活性化プロジェクト事例

【問合せ先】

国土交通省 国土政策局 離島振興課
掛井、中村(恭)

TEL : 03-5253-8111(内線:29-615、29-636)

TEL : 03-5253-8421(直通)

FAX : 03-5253-1594

参加離島地域一覧

	市町村名	島名
1	北海道奥尻町	おくしりとう 奥尻島
2	島根県西ノ島町	にしのしま 西ノ島
3	島根県知夫村	ちぶりじま 知夫里島
4	岡山県笠岡市	かさおかしやう たかしま しらいしじま きたぎしま まなべしま こびしま 笠岡諸島(高島、白石島、北木島、真鍋島、小飛島、 おおびしま むしま 大飛島、六島)
5	広島県大崎上島町	おおさきかみじま 大崎上島
6	愛媛県宇和島市	うわかいしやう くしま とじま 宇和海諸島(九島・戸島)
7	長崎県壱岐市	いきのしま 壱岐島
8	鹿児島県三島村	いおうじま 硫黄島

離島と企業をつなぐ『しまっちゃんぐ』の概要

- 離島と企業をつなぐ「マッチング」の場を提供
- 離島と企業との連携は、地域課題を解決する1つの手段
- 対話重視のマッチングにより、離島活性化のための事業につなげる

離島地域

- ・島を活性化したい
- ・島の魅力をもっと活かしたい
- ・外の企業と交流する機会が少ない

民間企業(島外)

- ・島と事業を立ち上げたいが、島のことが良くわからない
- ・島に貢献したいがつながり方がわからない

しまっちゃんぐ

- ・マッチング・交流 (ワークショップ、交流会の開催など)
- ・情報発信・共有 (ポータルサイトの立ち上げ、取組事例の共有、PRなど)

離島と企業をつなぐプラットフォーム

※ 離島と企業による事業の実施

課題解決

離島の活性化

◆ポイント① 対話を重視

- ・ワークショップの開催
- ・コーディネーターによるサポート

◆ポイント② チームが組める

- ・「1 離島 対 複数企業」、
「複数離島 対 1 企業」など
プランに応じたチーム編成

◆ポイント③ ICTの活用

- ・ポータルサイトの立ち上げ

平成29年度の「しまっちゃんぐ」の取組予定

- 国土交通省では、離島と企業をつなぐ「マッチング」の場を設け、商談などを通じて、離島の活性化につなげる「しまっちゃんぐ」の取組を進めています。
- 具体的には、離島のニーズを掘り起こすワークショップの開催、コーディネーターによるサポート、離島と企業をつなぐマッチング交流会の実施など、対話を重視した段階的な取組により離島の活性化のための事業につなげます。

9月上旬～ 「しまっちゃんぐ」ワークショップの開催

- ・コーディネーターが島を訪れ、現状をお伺いしつつ、島の皆様とワークショップをします。
- ・ワークショップでは、マッチング交流会で企業に思いが届くよう、ビジョン・プロジェクトづくりをサポートします。
- ・島の課題の本質を引き出し、島の良いところを共に考えます。島内の人と人を結ぶきっかけにもなります。



現地での意見交換



ワークショップ



9月下旬～ 「しまっちゃんぐ」特設サイト上で、企業のエントリー受付

- ・事務局がWEBサイト上で、島のビジョン・プロジェクトを公開し、マッチング交流会への参加企業を募ります。
- ・各島に興味を持った企業は、WEBサイトからエントリーいただきます。


<http://shimatching.mlit.go.jp>

10月21日(土) 「しまっちゃんぐ2017」の開催(交流・商談会)

- ・離島と企業が直接対話する場を設けます。
- ・離島側、企業側それぞれからのプレゼンテーション後、交流・商談会を行います。
- ・ご要望に応じて、コーディネーターが「つなぎ役」となって商談をサポートします。



プレゼンテーション



マッチング交流会



※ 平成28年度の「しまっちゃんぐ2016(秋)」では、12離島地域(31名)、45企業・団体(58名)、計89名の方にご参加いただきました。

11月以降 プロジェクトの始動

- ・離島の企業の思いがマッチングしたら事業化を目指します。
- ・始動したプロジェクトは「しまっちゃんぐWEB」でPRします。

【プロジェクトの例】

島の小学生による特産品開発

島のおきな
おきなほちまんし
沖島(滋賀県近江八幡市)では、「しまっちゃんぐ」をきっかけに、沖島小学校、行政、地元協議会、コープおきなわ、コープしが、池田牧場が連携し、児童による島の特産(さつまいも)をつかったアイスクリームづくりを行い、平成29年2月に販売会を開催。



事例 1 : 沖島×コープ滋賀 アイスクリームづくり (人口 ; 287人) 滋賀県近江八幡市

【沖島こどもチャレンジ特産品開発事業】

- 「しまっちゃんぐ2016」をきっかけに、近江八幡市と特産品開発の専門家がつながりを持ち、「沖島」で特産品開発がスタート。
- 事業者、地元協議会、行政のサポートの下、沖島小学校の子どもたちの企画による「沖島のやさしいアイス」が商品化。
- 子どもたちによる販売会では約600個が完売。今後、本格的に生産し、売り上げの一部は島の振興に役立てる予定。

マッチングの概要

【位置図】



【離島側の課題】

- ・高齢化、若者の島外流出
- ・島内の経済活性化
- ・沖島の認知度が低く、定住につながらない

×

【企業側の提案】

- ・島の小学生のキャリア教育を兼ねた特産品開発



【離島と企業のチームづくり】

(離島側)

- ・沖島小学校
- ・沖島町離島振興推進協議会
- ・近江八幡市

(企業側)

- ・コープおきなわ (全体オペレーター)
- ・池田牧場 (製造者)
- ・コープしが (販売者)

プロジェクトの内容

○ 沖島小学校の子どもたちの企画による島のアイスクリームづくり

- ・沖島小学校 (児童数15人) の子どもたちが、全4回の授業と現場実習を通じて、アイスクリームの企画開発から販売体験までを実施。
- ・事業者らのサポートの下、学校で育てた島のサツマイモを使用した「沖島のやさしいアイス」を商品化。
- ・パッケージには、沖島をイメージした魚や鳥のイラストが描かれ、販売会では、目標の200個を超える600個が完売した。
- ・今後、本格的に生産し、売り上げの一部は、子どもたちが中心となって、島の振興に役立てる予定。



①企画書づくり



②商談会



③試作品を試食



④パッケージデザイン



⑤完成品お披露目



⑥販売体験

期待される効果

子どもたちの島への誇りや愛着の醸成、島内産物の販路拡大とPR、沖島に対する認知度の向上

事例2：利尻島×KDDI しまものプロジェクト（人口；5,090人）北海道利尻町

【しまものプロジェクト：しまものラボ】

- 「しまっちゃんぐ2016（秋）」をきっかけに、利尻町、KDDI株式会社、利尻町商工会、NPO法人離島経済新聞社が結びつき、「しまものラボ」がスタート。
- 「しまものラボ」は、離島の地域活性化を目指す「しまものプロジェクト」の一環として、販路拡大や商品PRに課題を抱える離島の事業者を対象に、オンライン講座で販売の基礎を学ぶ取り組み。
- 最終的には、利尻島の産品をKDDIサイト「auウォレットマーケット」で販売し、販路拡大につなげる予定。

マッチングの概要

【位置図】



【離島側の課題】

- ・人口減少
- ・島内の産業活性化
- ・移住や定住の促進

×

【企業側の提案】

- ・全国販売に向けた食品衛生や安全面などに関する講座による販路拡大



【離島と企業のチームづくり】

（離島側）

- ・利尻町
- ・利尻町商工会
- ・町内事業者

（企業側）

- ・KDDI株式会社
- ・NPO法人離島経済新聞社

プロジェクトの内容

○ 流通販売・商品企画分野の専門講師による講義の実施

- ・商品が持つ「売り」や「課題」を発見し、商品の魅力を伝える手法や動画制作方法などを学ぶ。
- ・全5回の講座を通じ、自分の商品の「課題」と「売り」を探す（3回）、商品の「売り」を言語化する（2回）、動画制作体験講座（オプション）を学ぶ。



①本事業で作られたアイス



②利尻昆布ラーメン



③なまこストラップ



④利尻の焼酎



⑤利尻昆布の佃煮



⑥離島応援マルシェの様子

出典 | <http://k-tai.watch.impress.co.jp/docs/news/1061647.html>

期待される効果

離島産品の付加価値向上・販路拡大、専門スキルを持つ人材の育成

事例3：壱岐島×LIG どこでもオフィス、ゲストハウス（人口；26,750人）長崎県壱岐島

【壱岐市ふるさと納税・壱岐島魅力発信事業】

- 壱岐市は壱岐を好きになってくれる企業、そして共に知恵を出し合って、協働で島をわくわくさせたい企業に来てもらいたいと思い、(株)LIGのマッチング（「しまっちゃんぐ2016秋」）をきっかけに島内の各所で「どこでもオフィス」を展開。
- 都市圏で壱岐の食材を使った食体験イベントを開催し、ファン獲得、ふるさと納税の推進、交流人口の拡大、特産品の流通拡大、移住定住の促進に繋げる。

マッチングの概要

【位置図】



【離島側の課題】

- ・「半農×半ITの暮らし」
- ・「お金のいらない暮らし」の推進

×

【企業側の提案】

- ・サテライトオフィスを利用した島の情報発信
- ・壱岐島のヒトやモノをLIGブログでPR



【離島と企業のチームづくり】

（離島側）
・壱岐市

（企業側）
・(株)LIG

プロジェクトの内容

○どこでもオフィス

- ・(株)LIGが、「場所にとらわれない働き方をつくる」「仕事と遊びの境界線をなくし、その地域を全力で楽しむ」ことを目的に取り組むプロジェクト。
- ・実際に壱岐島の様々な場所でリモートワークをしながら、壱岐島の魅力をブログにて発信。
- ・サテライトオフィスの実践をするだけでなく、壱岐島の食と人をテーマにした食体験イベント「おいしく学ぶ勉強会～ふるさと納税のおはなし～第二回」を東京の(株)LIGが運営するシェアオフィス「いいオフィス」で開催。



①Caféでの仕事風景



②ゲストハウスでの仕事風景 1



③ゲストハウスでの仕事風景 2



④壱岐島をテーマにしたイベント



⑤イベントの様子 出典 | <https://liginc.co.jp/>

期待される効果

- ・サテライトオフィスという形での企業誘致および雇用創出。
- ・(株)LIGが壱岐島でゲストハウス『LAMP』をオープン（2018年1月ごろ予定）。